# コミュニケーション技法（C）
# ガイダンス

システム創成学科知能システムコース教授
元橋　一之
http://www.mo.t.u-tokyo.ac.jp/

# コミュニケーションとは？

- 何らかの意思、内容の伝達（相手がいるプロセス）
- 例えば：卒論発表会、就活面接、レポート、ビジネスプランのPitch、エレベータトーク、講演会でのトーク
- コミュニケーションのタイプ
  - 1 to 1 vs 1 to 2+ vs 1 to many
  - 多くの場合が、伝えたい人 vs 受け手（例外もあるが、例えばブレーンストーミング）
- 最も重要なのは目的は何か？

# 少し考えてみよう:
# 以下のコミュニケーションの目的は？

- 就活生の君が会社の面接に臨んだ。

- 会社に入った君が元指導教員に頼まれて授業（例えばビジネス入門）で学生に話してくれないかと頼まれた。その授業の目的は？

- 会社の社長とエレベータで遭遇、最近どうしているの？と聞かれた。

# 効果的なコミュニケーションとは？

- 目的は何か？
  - 新事業提案に関するプレゼンテーション：参加者（上司）の承認を得る
  - ビジネスプランピッチ：投資家から資金を得る
  - 卒業論文プレゼンテーション：評価者（教員）からいい評価を得る、ただし、評価基準は？？？
- 非言語要素の重要性（ビジネスプレゼンテーション>アカデミックプレゼンテーション）
  - 話し手が聞き手に与える影響度：話の内容は7%、一方で話し方（声の質、大きさ、速さ、口調）38%、ボディランゲージ（視線、表情、手振り）55%（箱田忠昭（2014）『即戦力になるビジネスコミュニケーション第２版』、日経BP社、１５ページ）
  - それ以外のプレゼンテーションの補助ツール（パワーポイント資料、サンプル品、ビデオ、音楽…）
  - アカデミックなプレゼンテーション（例えば卒論）はもちろん内容が重要。ただし、ビジネスの現場では非言語要素は想像以上に重要
- 「話す内容（伝えたいこと）が最も分かっているのは自分である。」ことを自覚すること。（コミュニケーションは双方向の行為）

# 科目の内容

- ビジネスコミュニケーションのプロ（非常勤講師）による講義、実践
- コミュニケーションにかかるストレスコントロール（レジリエンス）
- だたし、今回の授業では（科学的）研究論文（卒論）の書き方・心構え（アカデミックライティング）について取り上げたい。

# （科学的）研究論文の書き方

- 科学的研究手法：
  - リサーチクエスチョン：研究を行うにあたっての説きたい問題
  - 研究の手順：実験やシミュレーションのデザイン（モデルの構築）→データの入手（実験の実施、既存データの活用）→リサーチクエスチョンを解くための仮説の検証（統計的優位性など定量的客観性確保）
- 研究者コミュニティにおける公正な競争→科学技術の進歩
  - これまでに研究成果として明らかになっていなかった研究の競争
  - これまでの研究成果として明らかになっている結果を押さえる必要がある（過去文献の調査、有益なソースとしてのGoogle Scholar)

ウェブ全体から検索　日本語のページを検索

マイ アップデート: 好みの引用に基づいたおすすめの論文　詳細

Analysis of essential patent portfolios via bibliometric mapping: an illustration of leading firms in the 4G era
YJ Han - Technology Analysis & Strategic Management, 2015

The innovation process of Huawei and ZTE: Patent data analysis
B Kang - China Economic Review, 2014

すべての更新を参照してください

巨人の肩の上に立つ

# 科学的研究における倫理

- 研究者コミュニティにおける公正な競争→過当競争？
  - 論文による業績主義、成果主義の方向性
  - 不正行為に対する誘因：FFP（Fabrication：結果のねつ造、Falsification：データの偽造、改ざん、Plagiarism：盗用）
  - 特に意識しない不正行為として盗用（Plagiarism)に注意（意識した不正行為は論外であるとの前提）
- ブラックではないが好ましくない（グレーな）行為
  - Authorship（誰を論文のAuthorとするか）
  - クレジット（適切な謝辞での言及）
- 適切な引用
  - 適切な引用なくして、過去の研究成果を論文中に述べることは盗用（Plagiarism）に当たる。
  - 引用の方法については、東大工学部パンフレットを参照